

■ポリオフリーへの闘い：そのルーツ

1979年9月29日、フィリピンのマカティのグアダルーペ・ヒエボ地区にある保健センターで、ボランティアによる児童への経口ポリオワクチン投与が行われました。マニラ都市部でのこの活動は、ロータリアンとフィリピン保健省の代表者が手配しました。

ジェームズ L. ボーマー会長のインタビュー (1993年) Play audio

当時のジェームズ L. ボーマー会長が最初のワクチンを子どもに投与し、フィリピンのポリオ予防接種活動を開始。これが、ロータリーの「保健、飢餓追放および人間性尊重 (3-H) 補助金」プロジェクトの第1号となりました。

この活動に先立ち、ボーマー会長とフィリピン保健省のエンリケ M. ガルシア長官が、760,000米ドルをかけて数年間で600万人の子どもにポリオ予防接種を行うという国際ロータリーとフィリピン政府の合意書に署名しました。

1993年に行われたインタビューで、ボーマー会長はフィリピン訪問の様子を振り返っています。このインタビューの中でボーマー会長は、ある子供にワクチンを投与した後、横からその子の兄が会長のズボンを引っ張り、「ありがとう、ロータリー」と言ったという逸話について語っています。

このプロジェクトの成功がきっかけとなって、「ポリオのない世界」をつくることがロータリーの最優先事項となりました。ロータリーは1985年にポリオプラス・キャンペーンを発足させ、1988年にはGPEIの発足メンバーとなりました。ロータリーとパートナー組織の懸命な取り組みにより、経口ポリオワクチンの投与を受けた子どもの数は、全世界で25億人以上に上ります。

■ポール・ハリス語録 進歩より 「たとえ、よりよいことのためでも退けることができない、といったような聖域がロータリーに一つもないのは幸いです。現代は、移り変わる世界の実験的時代です。価値があり進歩するものはすべて試行錯誤の積み重ねなのです。」

(旅行記、第3巻) [It is well that there is nothing in Rotary so scared that it cannot be set aside in favor of things better. This is an experimental age in a changing world, and all things which are worthwhile and progressive are the cumulative effects of preceding successes and failures. \(Peregrinations, Vol. 3\)](#)

週 報

世界に希望を生み出そう
CREATE HOPE in the WORLD

ゴードン R. マッキナリー
2023-24 年度 国際ロータリー会長



第3014回例会報告 例会記録・予定

■出席報告

会 員 数	65名
出 席 免 除 会 員	1名
出 席 計 算 会 員	65名
出 席 会 員	35名
欠 席 会 員	30名
出 席 率	53.85%

欠席会員名 宮城、上原(義)、中村(聡)、与儀、平良、金城、新里、長嶺許田、国吉、具志堅、渡辺、下石、新垣(安)、中村(英)、宜保、与那覇、上原(修)、米須、赤嶺、下地、松元、義元、喜納、宮里、首藤、新垣(直)、桂原、山内、河端。

MAKE-UP 安里(政) <パストガバナー補佐会> 津嘉山 <地区R財団委員会 ZOOM>

ビジター 山本 衛 氏(松戸西)

ゲスト 米山奨学生 コ・イホウ君(台湾)

☆プログラム

9月26日(火)
「イニシエーションスピーチ」
日本銀行那覇支店 支店長
小島 亮太 会員

10月3日(火)「演題未定」
株式会社 Sustaina BASE 代表
田名 真之 氏

10月10日(火)
「オープン例会：演題未定」
琉球アスティードスポーツクラブ株式会社
代表取締役会長 早川 周作 氏

10月24日(火)
「米山月間にちなんで：米山奨学生卓話」
コ・イホウ君(台湾)

那覇ロータリークラブ

事務局 那覇市西3警察-6-1 (パシフィックホテル沖縄1階) TEL 868-1224 FAX 861-4918
E-mail アドレス naha-rc@m1.cosmos.ne.jp HP アドレス : <http://naha-rc.org/>
会長 亀川 偉作 副会長/クラブ管理運営委員長/会長エレクト 伊志嶺 匡 副会長/クラブカウンセラー 上原 義信
幹事 保田盛 清士 クラブ会報委員長 松元 剛 副委員長 新垣 淑豊 委員 与儀 達樹

■ニコニコ BOX (*^^*)v

石嶺 一 会員

私の社長就任にあたり RC の皆さんから暖かいご祝辞をたくさん頂きました。

イッペー ニフェー デービル！！

赤岩 勇二 会員

石嶺さん、社長就任おめでとうございます。武田さん、沖縄観光を盛り上げていって下さい。ニコニコ。

■2023-24 年度ニコニコ BOX

本日のニコニコ BOX ¥4,000

ニコニコ BOX 累計 ¥146,000

■幹事報告 保田盛 清士 幹事

*本日も 11/21 (火) 沖縄分区分 IM 参加者を募ります。回覧致しますのでご出席される会員は各自でご記入下さい。

*他クラブ例会変更・休会

・石垣 RC 9/27 (水) →9/26 (火) 夜間例会 (座禅&懇親会) 18:30~ 場所: 桃林寺

・コザ RC 移動例会① 9/28 (木) 夜間例会 19:00 点鐘 場所: ステーキハウス四季園田本店 会費 7,000 円

*メイクアップの申込みは 9/26 (火) までにコザ RC 事務局まで。

②オープン例会 10/5 (木) 12:15~14:00 場所: オキナワグランメーリリゾート 2 階 ビジター費 2,000 円

*メイクアップの申込みは 9/29 (金) までにコザ RC 事務局まで。

・那覇東 RC 夜間例会 10/5 (木) 18:00 点鐘 場所: 天久テラス

ビジター費: 6,000 円*メイクアップの申込みは 9/29 (金) までに那覇東 RC 事務局 休会 10/19 (木)

・名護 RC 休会 10/11 (水)

■マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

(+6) 表彰

鈴木 康友 会員



鈴木会員はポール・ハリス・ソサエティ。毎年千ドル以上のご寄付を頂いております。

■会長報告

亀川 偉作 会長

*本日の卓話は武田さんのインシエーションスピーチ。どうぞよろしくお願い致します。

■地区青少年交換帰国学生報告会・報告

河井 耕治 青少年交換委員長



フィンランド共和国から帰国された浦崎絵戸さん(沖縄カトリック)から報告がございました。

■オープン例会のご案内

安里 繁信 会員増強委員長



ロータリークラブを知って頂く良い機会です。会員候補者をご紹介下さい。

日時: 10月10日(火) 12:30 開会 12:55~13:25 (30分) 卓話(講演) 13:30 閉会 *お食事をご準備しております。アレルギー等ございましたらお申し付け下さい。 場所: パシフィックホテル沖縄 2 階 「ワイケレ」 卓話(講演者): 琉球アスティーダスポーツクラブ株式会社 代表取締役会長 早川 周作 氏

■9月は基本的教育と識字率の向上月間 (Basic Education and Literacy Month)

シリアの子どもたちを守る 投稿日: 2月

22, 2021 寄稿者: ムーイー・ヤン (2019-21

年度ロータリー平和フェロー、ウブサラ大学) 10年前、もし誰かに「あなたは紛争後の国に非営利の学校を設立するだろう」と言われたら、私はきっと笑い飛ばしていたでしょう。当時、私は商品取引会社のセールス担当としてクライアントの訪問や炭鉱の視察をしていました。同僚たちとクライアントを訪問した時のことです。私は、炭鉱で子どもが働いているのを見て驚きました。10歳に満たないような子もいました。そのクライアントは、就労の法的年齢に達していない子がいる事実を隠していたことを認めました。その村には小学校がひとつあり、教師は二人だけ、そのうち一人はパートタイムです。生徒が小学校を卒業できたとしても、また中学校の学費を払えたとしても、一番近い中学校までトゥクトゥク(小さな3輪のオートバイ)で片道一時間以上かかります。現実には、ほとんどの子が幼い頃から炭鉱で働き、親と同じように一生そこで働く運命を背負っていました。煤で汚れた子どもたちの顔が脳裏から離れませんでした。私は仕事を辞め、大学に戻ることを決心。そして、イリノイ州の公選弁護士事務所でインターンとして働き、収監された未成年たちを担当した後、数カ国で恵まれない子どもたちの支援に携わりました。ロータリー平和フェローシップ(奨学金)に申請して留学し、その後もあれこれあって、シリアで社会から取り残された子どもたちのための非営利学校を設立、運営することとなったのです。転機は、ウブサラ大学(スウェーデン)へのフェローシップ留学でした。ロータリー平和フェローシップ学友会の第1回世界平和カンファレンスを手伝った私は、そこでもう一人の平和フェロー、アン・キェール・バテルさんに出会いました。社会から取り残された人たちの生活改善に

力を注ぐ彼女の体系的アプローチに、私は触発されました。シリアのホームレスの子どもたちの支援と一緒にあたっていた私たちはロータリアンの方々からのアドバイス、知識、サポートもあって、「チャンピオン・スクール」を立ち上げました。チャンピオン・スクールでの日々の仕事は、やりがいがあり、学ぶことも多くあります。昨年10月のある午後、コーチから電話を受けたときのことを今も鮮明に覚えています。市内で3つの爆弾攻撃があり、まだ犯行声明が出されていないと言うのです。翌日、私たちは生徒たちの家を訪れ、授業への送迎は学校が行うと親たちに約束しましたが、それでも生徒の半数しか授業に来ませんでした。シリアでは電力供給が限られているため、通常、会議は深夜に行いました。低空飛行でパトロールする戦闘機のエンジン音がうるさく、何度も話し合いを中断しなければなりませんでした。それも冗談にして笑い飛ばしました。2020年の秋学期には、6つの異なる民族・宗教から40人以上の生徒が参加しました。クリスマス休暇前には運動場の清掃や公共スポーツ施設の修復など社会奉仕に生徒が参加する特別活動も実施。こうした体験型プログラムを通じて、地域の未来のリーダーとなる生徒たちに公共奉仕の心を学んでもらいたかったのです。充実した秋学期の後、2021年1月に始まった春学期には、立ち上げ以来ずっと力を注いできた [Blue Bow program](#) を正式なプログラムとしました。これは、ホームレスの子どもたちを性的搾取や未成年売春から守るプログラムです。この仕事は、ウブサラ大学(スウェーデン)へのフェローシップ留学でした。ロータリー平和フェローシップ学友会の第1回世界平和カンファレンスを手伝った私は、そこでもう一人の平和フェロー、アン・キェール・バテルさんに出会いました。社会から取り残された人たちの生活改善に